



| | | | | |
|--|--------|---|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (経営学) | | |
| | ゼミ担当者名 | 石川 雅敏 (いしかわ まさはる) | | |
| | 科目分類 | 専門科目群 | | |
| | 開講年次 | 2年次 | 開講期間 | 通年 |
| | 開講時限 | 火曜日3限 | 単位数 | 2単位 |
| | 実施方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用 | | |


| | |
|-----------|---|
| ゼミのテーマ | 企業の経営戦略を事例研究する。 同一産業分野の2つ以上の会社の経営を比較し、業績の差の原因を考える。 |
| ゼミの到達目標 | この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1) 地域企業が外部環境の変化にどのような戦略で対応しているかが理解できる。 |
| ゼミの概要 | 研究対象とする企業または産業を1つ選択し、外部環境の変化との関係性に特に注目して調査研究を行う。 |
| 授業時間外の学習 | 1) 経営戦略に関する基礎的知識の学習 2) 企業の経営情報の収集および解析 |
| 履修条件 | 研究対象としたい企業、産業を具体的に持っており、その理由が説明できること。 3年間研究し、4年次に研究発表を原則として行うこと。 |
| テキスト | 特にありません。 |
| 参考文献・資料 | 特にありません。 |
| 成績評価の方法 | 授業における優れた意見の発出 (20%)、レポート (30%)、定期試験 (50%) ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。 |
| オフィスアワー | 毎週水曜日・金曜日 13:00~15:00 *これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。 |
| 成績評価基準 | 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) |
| 学生へのメッセージ | 企業を研究調査して、自分の就職活動に活かしましょう。 |

| 授業計画 | | | |
|------|--|------|-------|
| 第1回 | イントロダクション 研究倫理教育:研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について | 第17回 | 企業調査、 |
| 第2回 | 研究対象企業の候補探し | 第18回 | 企業調査 |
| 第3回 | 研究対象企業の候補探し | 第19回 | 企業調査 |
| 第4回 | 研究対象企業の候補探し | 第20回 | 企業調査 |
| 第5回 | 候補企業の概要調査 | 第21回 | 企業調査 |
| 第6回 | 候補企業の概要調査 | 第22回 | 企業調査 |
| 第7回 | 候補企業の概要調査 | 第23回 | 企業調査 |
| 第8回 | 研究企業の選択 | 第24回 | 企業調査 |
| 第9回 | 研究企業の選択 | 第25回 | 企業調査 |
| 第10回 | 研究企業の選択 | 第26回 | 企業調査 |
| 第11回 | 企業調査 | 第27回 | 企業調査 |
| 第12回 | 企業調査 | 第28回 | 企業調査 |
| 第13回 | 企業調査 | 第29回 | 企業調査 |
| 第14回 | 企業調査 | 第30回 | 企業調査 |
| 第15回 | 企業調査 | 第31回 | 研究発表 |
| 第16回 | 定期試験 | 第32回 | 定期試験 |

| | | | | |
|--|--------|---|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (行動科学) | | |
| | ゼミ担当者名 | 市原 光匡 | | |
| | 科目分類 | 専門科目群 | | |
| | 開講年次 | 2年次 | 開講期間 | 通年 |
| | 開講時限 | 水曜日 1限 | 単位数 | 2単位 |
| | 実施方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用 | | |


| | |
|-----------|---|
| ゼミのテーマ | 教育学やその基礎となる行動科学の研究手法に触れ、研究の素地を養うとともに、その手法を用いて課題研究を行う。 |
| ゼミの到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学やその基盤としての行動学の研究枠組みを理解し、説明ができる。 2. 個々の能力や適性、興味関心をもとに研究テーマを設定し、それにしたがって研究を行うことができる。 |
| ゼミの概要 | <p>前期では、まず教育学に関するテキストを読み、教育学の対象と方法を理解するとともに、教育学研究に貢献する行動科学の基礎をふまえる。そのうえで、それぞれの関心をもとに学生自ら今後取り組む研究テーマを検討する。</p> <p>後期は、前期の学習をふまえ、それぞれ課題を設定し、個人またはグループで課題に取り組む。</p> |
| 授業時間外の学習 | 現代の社会問題に関心を向け、自分なりの考えを主張できるようにしておきたい (1.5 時間程度)。また復習として、授業で取りあげる研究分野ごとにその研究方法や研究の意義などをふまえておくこと (1.5 時間程度)。 |
| 履修条件 | <p>特に設けない。ただし、下記の要件を満たさなかった場合、特別の事情のあるものを除き単位の修得を認定しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度中に「地域フィールドワーク」「教育学入門」のいずれかを修得すること (または修得済みであること) <p><u>なお、履修を希望するものは、履修登録に先だって担当教員と面談し、履修の許可を得ること。履修の許可を得ないまま履修登録をしても、単位の修得を認定しない。</u></p> |
| テキスト | 小川正人・森津太子・山口義枝 [編著] 『心理と教育を学ぶために』 放送大学教育振興会, 2012. 岡崎友典・永井聖二 [編著] 『教育学入門－教育を科学するとは－』 放送大学教育振興会, 2015. |
| 参考文献・資料 | 必要に応じて適宜指示する。 |
| 成績評価の方法 | ゼミナール内での発表・報告 40%、平常点 40%、期末試験 20%の割合で評価を行う。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。 |
| オフィスアワー | 火曜日 9:00～10:30・金曜日 13:00～14:30 |
| 成績評価基準 | 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) |
| 学生へのメッセージ | <p>学生の参加によって成り立つ授業である。時間と手間はかかるが、興味関心をもって積極的に参加すれば、他の授業では得られない発見や体験もできる。したがってゼミナールの活動には積極的に参加すること。また各回意見交換の機会を設けるので、ゼミナール内でのコミュニケーションを深め、他者と協働しながら学習をすすめていくこと。</p> <p>なお、やむをえない事情により欠席・遅刻する際にはその都度連絡すること。</p> |

| 授業計画 | | | |
|------|--|------|-------------------|
| 第1回 | ガイダンス・研究倫理教育（研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について） | 第17回 | 後期ガイダンス・計画実施状況の確認 |
| 第2回 | 文献講読①（教育学と近接の研究領域） | 第18回 | 参考文献の報告会①（第1グループ） |
| 第3回 | 文献講読②（教育学の研究対象と研究分野・研究方法） | 第19回 | 参考文献の報告会②（第2グループ） |
| 第4回 | 文献講読③（学習行動・学習者理解のための心理学研究（1）） | 第20回 | 参考文献の報告会③（第3グループ） |
| 第5回 | 文献講読④（学習行動・学習者理解のための心理学研究（2）） | 第21回 | 文献講読⑪（学校の組織と文化） |
| 第6回 | 問題意識の明確化 | 第22回 | 中間報告会（第1グループ） |
| 第7回 | 研究テーマの設定 | 第23回 | 中間報告会（第2グループ） |
| 第8回 | 研究テーマの報告・グルーピング | 第24回 | 中間報告会（第3グループ） |
| 第9回 | 文献講読⑤（学習行動・学習者理解のための社会学研究（1）） | 第25回 | 文献講読⑫（教育内容と教育方法） |
| 第10回 | 文献講読⑥（学習行動・学習者理解のための社会学研究（2）） | 第26回 | 文献講読⑬（転換期における教育） |
| 第11回 | 文献講読⑦（教育学の系譜（1）） | 第27回 | 文献講読⑭（教育の構造と機能） |
| 第12回 | 文献講読⑧（教育学の系譜（2）） | 第28回 | 文献講読⑮（教育の文化的基礎） |
| 第13回 | 文献講読⑨（近代社会の成立と学校） | 第29回 | 最終報告会（第1グループ） |
| 第14回 | 文献講読⑩（公教育制度の展開とゆらぎ） | 第30回 | 最終報告会（第2グループ） |
| 第15回 | 研究計画の策定 | 第31回 | 最終報告会（第3グループ） |
| 第16回 | 定期試験 | 第32回 | 定期試験 |

| | | | | |
|---|--------|---|------|------|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (観光学) | | |
| | ゼミ担当者名 | 井上 寛 | | |
| | 科目分類 | 専門科目群 | | |
| | 開講年次 | 2年次 | 開講期間 | 通年 |
| | 開講時限 | 水曜日 1 時限 | 単位数 | 2 単位 |
| | 実施方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用 | | |

| | |
|-----------|---|
| ゼミのテーマ | 「観光」を実践的に学ぶ |
| ゼミの到達目標 | 実践的に「観光」を学ぶための基礎を理解することができる。 |
| ゼミの概要 | <p>観光学は、実は面白くて役に立つ学問です。その観光学を実践的に楽しく学ぶことがこのゼミナールの1年間のミッションです。フィールドワークの「技」を実践から身につけ観光を研究することも重要ですし、さまざまな資格にチャレンジすることも将来に役立ちます。</p> <p>各自の興味・関心をもとに、メンバーと話し合ったうえで共通の研究テーマを決定し、観光をテーマにしたフィールドワークを含めた基礎的なグループ研究を1年かけて行います。</p> <p>観光学は実践的な学問ですので、自分から「アクション」を起こすことを重視したいと思います。ゼミ時間外に活動することもあります。積極的に参加する意欲のある学生の参加を期待します。</p> |
| 授業時間外の学習 | ゼミナールの課題に対し主体的かつ真剣に取り組むこと。 |
| 履修条件 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 体験ゼミナールに参加すること。 2. 観光学を実践的に学ぶ意欲があること。 3. ゼミ行事(高杉祭、イベント、旅行、食事会など)に積極的に参加する意欲があること。 4. 無断欠席やネガティブな言動をしないこと。 |
| テキスト | 適宜資料をポータルサイトで配布します。(特定のテキストは使用しません) |
| 参考文献・資料 | ゼミナールの時間およびポータルサイトで適宜指示します。 |
| 成績評価の方法 | 定期試験(30%)・提出物(30%)・ゼミ活動への参加状況・姿勢(40%) |
| オフィスアワー | 毎週月曜日 1 時限(9:00~10:30) 毎週木曜日 2 時限(10:40~12:10) |
| 学生へのメッセージ | <p>ゼミナール担当の井上寛は、学生時代より四半世紀、一貫して観光をテーマに研究しています。実学である「観光」はとにかく「実践」することが重要ですが、そのベースとなる社会科学を深く学ぶことも同様に重要です。みなさんの今後の人生の中で、「私は大学で実践的に観光を学んできた!」と堂々と語れるように、観光学を学んできた先輩として、一緒に学び続けていきたいと思っています。その「実践」のためには、観光学ゼミナールでは、課題や研究に関して、自分たちで考え企画し、実践することを重視します。そして、高杉祭をはじめゼミ旅行やコンパなどのゼミ行事などの「楽しいグループワーク」もたくさん行いたい。相手をいたわり一緒に楽しみ喜びを分かち合えることのできる学生の履修を希望します。</p> |

| 授業計画 | | | |
|------|--------------------|------|------------------|
| 第1回 | 前期オリエンテーション／研究倫理教育 | 第16回 | 後期オリエンテーション |
| 第2回 | 未来の目標を語ろう | 第17回 | 観光学の基本1 |
| 第3回 | 観光学の可能性 | 第18回 | 観光学の基本2 |
| 第4回 | 研究テーマと問題意識1 | 第19回 | 研究課題の中間報告1 |
| 第5回 | 研究テーマと問題意識2 | 第20回 | 研究課題の中間報告2 |
| 第6回 | 研究テーマと問題意識3 | 第21回 | 研究課題のディスカッション2-1 |
| 第7回 | フィールドワークの方法1 | 第22回 | 研究課題のディスカッション2-2 |
| 第8回 | フィールドワークの方法2 | 第23回 | 研究報告書の書き方 |
| 第9回 | フィールドワークの方法3 | 第24回 | 観光学の理論1 |
| 第10回 | 総合学習 | 第25回 | 観光学の理論2 |
| 第11回 | 研究課題のディスカッション1-1 | 第26回 | 研究課題のディスカッション2-3 |
| 第12回 | 研究課題のディスカッション1-2 | 第27回 | 研究課題のディスカッション2-4 |
| 第13回 | 研究課題のディスカッション1-3 | 第28回 | 研究課題の発表1 |
| 第14回 | 研究課題のディスカッション1-4 | 第29回 | 研究課題の発表2 |
| 第15回 | 前期の振り返り | 第30回 | 後期の振り返り |
| | | 第31回 | 期末試験 |

| | | | | |
|--|--------|---|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (民法) | | |
| | ゼミ担当者名 | 鬼塚 隆政 (おにつか たかまさ) | | |
| | 科目分類 | 専門科目群 | | |
| | 開講年次 | 2年次 | 開講期間 | 通年 |
| | 開講時限 | 火曜日 3限 | 単位数 | 2単位 |
| | 実施方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用 | | |

| | |
|-----------|---|
| ゼミのテーマ | 民法全体を外観し、3年次以降の学習のための基礎知識を修得する。 |
| ゼミの到達目標 | 民法全体について基礎知識を習得し、公務員試験、金融機関就職等3年次以降の学習へつなげる。 |
| ゼミの概要 | <p>民法の基本書を輪読します。</p> <p>適宜、教員より質問を投げかけ、全員でディスカッションを行い、正確な知識の理解と具体的イメージを修得します。</p> <p>毎回範囲となる部分を予習し、疑問点を授業で発言してもらいます。</p> <p>本ゼミナールでは、知識の確認のため適宜ミニテストを実施します。</p> |
| 授業時間外の学習 | ゼミナールで扱う範囲について、各自予習し、分からない部分を講義で質問する準備をする。(1.5時間)。 |
| 履修条件 | 民法総則の単位を取得していること。 |
| テキスト | 履修者と相談して指定します。 |
| 参考文献・資料 | <p>我妻榮他「民法1総則・物権法 第4版」勁草書房</p> <p>我妻榮他「民法2債権法 第4版」勁草書房</p> <p>我妻榮他「民法3親族法・相続法 第4版」勁草書房</p> |
| 成績評価の方法 | <p>ゼミナール内での議論への参加状況(50%)と試験結果(50%)に出席状況等を加味して評価します。</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p> |
| オフィスアワー | 月曜日～金曜日 研究室在席中いつでも可 |
| 成績評価基準 | 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) |
| 学生へのメッセージ | <p>民法を学ぶ意欲のある学生の参加を歓迎します。</p> <p>民法の範囲は広大です。公務員試験、国家試験等を考えている方、金融機関等に就職を希望している方にとって民法は、大変重要です。大学の講義をより効果的に活用できるよう、一度民法全体を外観しましょう。</p> <p>理由なく欠席した場合にはレポート等の提出を求めます。</p> |

| 授業計画 | | | |
|------|------------------------|------|-----------------------|
| 第1回 | ガイダンス、研究倫理教育 | 第17回 | 輪読・ディスカッション 債権総論① |
| 第2回 | 輪読・ディスカッション 民法総則① | 第18回 | 輪読・ディスカッション 債権総論② |
| 第3回 | 輪読・ディスカッション 民法総則② | 第19回 | 輪読・ディスカッション 債権総論③ |
| 第4回 | 輪読・ディスカッション 民法総則③ | 第20回 | 輪読・ディスカッション 債権総論④ |
| 第5回 | 輪読・ディスカッション 民法総則④ | 第21回 | 輪読・ディスカッション 債権総論⑤ |
| 第6回 | 輪読・ディスカッション 民法総則⑤ | 第22回 | 輪読・ディスカッション 債権各論① |
| 第7回 | 輪読・ディスカッション 民法総則⑥ | 第23回 | 輪読・ディスカッション 債権各論② |
| 第8回 | 輪読・ディスカッション 物権法① | 第24回 | 輪読・ディスカッション 債権各論③ |
| 第9回 | 輪読・ディスカッション 物権法② | 第25回 | 輪読・ディスカッション 債権各論④ |
| 第10回 | 輪読・ディスカッション 物権法③ | 第26回 | 輪読・ディスカッション 債権各論⑤ |
| 第11回 | 輪読・ディスカッション 物権法④ | 第27回 | 輪読・ディスカッション 親族相続① |
| 第12回 | 輪読・ディスカッション 担保物権法① | 第28回 | 輪読・ディスカッション 親族相続② |
| 第13回 | 輪読・ディスカッション 担保物権法② | 第29回 | 輪読・ディスカッション 親族相続③ |
| 第14回 | 輪読・ディスカッション 担保物権法③ | 第30回 | 輪読・ディスカッション 親族相続④ |
| 第15回 | 輪読・ディスカッション 担保物権法④、まとめ | 第31回 | 輪読・ディスカッション 親族相続⑤、まとめ |
| 第16回 | 定期試験 | 第32回 | 定期試験 |

| | | | | |
|--|--------|---|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (財務会計) | | |
| | ゼミ担当者名 | 國井法夫 | | |
| | 科目分類 | 専門科目群 | | |
| | 開講年次 | 2年次 | 開講期間 | 通年 |
| | 開講時限 | 水曜日1限 | 単位数 | 2単位 |
| | 実施方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用 | | |

| | |
|-----------|--|
| ゼミのテーマ | 日商簿記3級・日商簿記2級、税理士簿記論、宅建士、FP等の資格取得を目指します。 |
| ゼミの到達目標 | 1年間で日商簿記3級を全員取得すること。 |
| ゼミの概要 | 各学生の目標にそって各自がその資格取得に取り組む。 |
| 授業時間外の学習 | ゼミとは別に週1回個別に私の研究室で問題演習をやる。 |
| 履修条件 | 自分の目標に向けて真面目に取り組める学生 |
| テキスト | 各学生の取得希望資格によりテキストを指定します。 |
| 参考文献・資料 | |
| 成績評価の方法 | <p>授業態度・検定試験の合否・自分の目標を持っているかどうかを見て評価する。</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p> |
| オフィスアワー | 水曜日4時間目・金曜日4時間目 |
| 成績評価基準 | 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) |
| 学生へのメッセージ | 近年、楽な方に楽な方に流れる学生が多い。積極的に目標に向かって努力する人を希望します。 |


| 授業計画 | | | |
|------|-------------------------|------|-------------------------|
| 第1回 | 研究倫理教育・面接 | 第17回 | 3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習 |
| 第2回 | 仕訳演習 問題演習 | 第18回 | 3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習 |
| 第3回 | 試算表問題演習 過去問題演習 | 第19回 | 3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習 |
| 第4回 | 試算表問題演習 予想問題演習 | 第20回 | 直前問題演習 |
| 第5回 | 決算整理と諸表作成 過去問題演習 | 第21回 | 直前問題演習 |
| 第6回 | 決算整理と諸表作成 予想問題演習 | 第22回 | 直前問題演習 |
| 第7回 | 日商簿記3級検定試験直前演習 仕訳 | 第23回 | 直前問題演習 |
| 第8回 | 日商簿記3級検定試験直前演習 試算表 | 第24回 | 直前問題演習 |
| 第9回 | 日商簿記3級検定試験直前演習 P/L | 第25回 | 2月試験への2級・3級不合格者問題演習 |
| 第10回 | 日商簿記3級検定試験直前演習 B/S | 第26回 | 2月試験への2級・3級不合格者問題演習 |
| 第11回 | 3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習 | 第27回 | 2月試験への2級・3級不合格者問題演習 |
| 第12回 | 3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習 | 第28回 | 2月試験への2級・3級不合格者問題演習 |
| 第13回 | 3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習 | 第29回 | 2月試験への2級・3級不合格者問題演習 |
| 第14回 | 3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習 | 第30回 | 2月試験への2級・3級不合格者問題演習 |
| 第15回 | 3級合格者は2級の授業 3級不合格者は問題演習 | 第31回 | 面接 |
| 第16回 | 定期試験・面談 | 第32回 | 定期試験 |

| | | | | |
|---|--------|---|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (安全保障論) | | |
| | ゼミ担当者名 | 佐藤 克枝 | | |
| | 科目分類 | 専門科目群 | | |
| | 開講年次 | 2年次 | 開講期間 | 通年 |
| | 開講時限 | 水曜日 1限 | 単位数 | 2単位 |
| | 実施方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用 | | |

| | |
|----------|---|
| ゼミのテーマ | 安全保障について学び、基本的な問題点を発見する。 |
| ゼミの到達目標 | <p>この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を習得できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 国家の成立要件（住民・領土・政府・外交能力）を理解している。 2 領域及び日本の領土問題の概要を理解している。 3 防衛政策の基本（専守防衛）、日米安全保障体制が説明できる。 4 国家安全保障戦略、事態対処法制、平和安全法制の概要を理解している。 5 国連の集団安全保障体制と集団的自衛権の差異を理解している。 6 武力攻撃事態への対処のための法律の概要を理解している。 7 国民保護についての国や自治体の取り組みについて理解している。 8 安全保障に関し、選択したテーマについて自己の意見を述べるができる。 |
| ゼミの概要 | <p>日本の安全保障について 国際環境と国内政治がどのようにかかわってきたのかにも着目しつつ学んでいきます。</p> <p>世界の各国は独自の安全保障政策や、安全保障組織により、自国の主権と独立を確保しています。現在の国際情勢、とりわけ軍事情勢は厳しい状況にあります。そのような中で、各国はそれぞれの防衛努力により、周辺諸国と連携するとともに、国連の集団的安全保障体制の下で平和と安全を維持しているところです。</p> <p>前半は現在の平和安全保障体制の下で日本がどのような安全保障政策をとっているのか、国連の集団安全保障体制、日米及び関係各国との安全保障体制についても解説していきます。後半は、各自が興味を持ったテーマについて報告を行い、安全保障についてさらに理解を深めていきます。</p> |
| 授業時間外の学習 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本の安全保障政策に関するニュースに関心を持つこと。 ・国際的な軍事情勢、国際テロ、日本周辺の情勢に関心を持ち、国連や当事国の対処状況に関心を持つこと。 ・毎回のゼミのはじめに、国際関係や安全保障に関するトピックスを発表できるよう準備すること。 <p>(予習 2時間程度、復習 2時間程度)</p> |
| 履修条件 | <ol style="list-style-type: none"> 1 次の①～④の条件をすべて満たすこと。 <ol style="list-style-type: none"> ① 学生生活入門 I・II、または総合科目 I・II の単位を修得済みであること。 ② 統治機構、行政学 1、公共政策論、地域政策論、民法総則、観光法規、観光社会学、社会調査の仕方、国際研究入門、世界政治学 I、世界政治学 II のうちいずれかの単位を修得済みであること。 ③ 現代政治論を同時履修すること。 ③ 第 1 回の前半または後半に出席し、安全保障に関する関心事項についてのペーパーを提出すること（フォーマットは第 1 回ゼミナール時に配布する。）。 ④ 履修登録にあたっては、第 1 回ゼミナール時に担当教員と面接の上、履修許可を得ること。 2 国際関係論、安全政策論、防衛政策、防災学概論との同時履修であることが望ましい。 3 ゼミナールは討議により進めるので、時間中に発言のない場合は出席と認めないことがある。 |
| テキスト | 授業中に指示する。 |


| | |
|-----------|---|
| 参考文献・資料 | 防衛白書（令和4年版）、外交青書（令和4年版）、田村重信等『日本の防衛法制』（内外出版）、同『日本の防衛政策』（内外出版）、森本敏『日本の安全保障』（実務教育出版）、武田康裕『安全保障のポイントがよくわかる本』（亜紀書房）、西原正『わかる平和安全法制』（朝日新聞社）、武田康裕ほか『新訂第5版 安全保障学入門』（亜紀書房）、渡邊隆『平和のための安全保障論 軍事力の役割と限界を知る』（かもがわ出版）、田村重信・さとう正久編著『教科書 日本の防衛政策』芙蓉書房出版、松本利秋『逆さ地図で解き明かす新世界情勢』（ウエッジ） |
| 成績評価の方法 | 授業への参加状況（報告・質疑応答など）50%、ゼミレポート50% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。 |
| オフィスアワー | 火曜日14:40～16:10・水曜日14:40～16:10 |
| 成績評価基準 | 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) |
| 学生へのメッセージ | 国際関係や国家としての安全保障のあり方、国民保護等に興味のある学生の積極的な参加を期待しています。 学生の関心が定まり、後期のはじめからレポート作成と研究発表に着手することができるようにするため、前期はこれまで体系的に学んだことがない学生もいることを前提にゼミナールを進めます。 後期には、実際に安全保障に携わる防衛省及び国民保護計画策定の中心となる自治体の関係者をゲストスピーカーとして招聘して特別講義をして頂き、安全保障について、さらに理解を深めてもらう予定です。 |

| 授業計画 | | | |
|------|--|------|-------------------|
| 第1回 | ガイダンス（研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について） 安全保障の意義 | 第17回 | 学生による発表① 討議 |
| 第2回 | 国家の成立要件、領域 | 第18回 | 学生による発表② 討議 |
| 第3回 | 領土・領海・領空 | 第19回 | トピック・まとめ |
| 第4回 | 防衛政策の基本① | 第20回 | 学生による発表③ 討議 |
| 第5回 | 防衛政策の基本② | 第21回 | 学生による発表④ 討議 |
| 第6回 | 防衛政策の方針 | 第22回 | トピック・まとめ |
| 第7回 | 政策決定機関 | 第23回 | 学生による発表⑤ 討議 |
| 第8回 | 治安維持と防衛の差異 | 第24回 | 学生による発表⑥ 討議 |
| 第9回 | 緊急事態対処時の行動及び権限 | 第25回 | トピックまとめ |
| 第10回 | 武力攻撃事態における法体系 | 第26回 | 学科発表会に向けてのプレゼン準備① |
| 第11回 | 国民保護の在り方 | 第27回 | 学科発表会に向けてのプレゼン準備② |
| 第12回 | 国際連合の主要機関及び役割 | 第28回 | 学科発表会に向けてのプレゼン準備③ |
| 第13回 | 国際司法裁判所 | 第29回 | 特別講義①（ゲストスピーカー） |
| 第14回 | 国際平和協力活動の概要 | 第30回 | 特別講義②（ゲストスピーカー） |
| 第15回 | 地域的安全保障体制の概要 | 第31回 | 全体のまとめ① |
| 第16回 | 前期のまとめ | 第32回 | 全体のまとめ② |

| | | | | |
|---|--------|---|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (経済分析・データサイエンス) | | |
| | ゼミ担当者名 | 田村 英朗 | | |
| | 科目分類 | 専門科目群 | | |
| | 開講年次 | 2年次 | 開講期間 | 通年 |
| | 開講時限 | 水曜日 1限 | 単位数 | 2単位 |
| | 実施方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用 | | |

| | |
|-----------|--|
| ゼミのテーマ | <p>1. 研究のための基礎的能力を養成すると共に、各自の興味・テーマに応じて「経済理論」、「計量経済学」または「データサイエンス」の手法を学び、議論し、研究することにより、大学生活の仲間と共に成長する。</p> <p>2. 就職活動において、企業にPRできる研究活動を行うための準備を行う。</p> |
| ゼミの到達目標 | <p>1. 自分で関心のある研究テーマを見つけ、大学の授業およびゼミナールで得た知識および分析手法と収集したデータを用いて有意義な知見を引き出せるようになること。</p> <p>2. 社会もしくは企業の課題解決に自ら貢献したいというマインドを形成すること。</p> |
| ゼミの概要 | <p>本ゼミは3年次のゼミナール大会へ向けた2年間の研究課程の初年度の位置づけとしている。2回のガイダンスの後、関心のある研究テーマの発表と仮グループ編成を行い、第11回までの輪読(分析手法習得)と並行して、参考文献とデータの収集を進める。第12回に研究テーマおよびグループを確定し、以降はグループ単位で参考文献の選定と輪読、データ収集、分析手法の決定を行い、ゼミナール大会での発表を目指して活動する。ゼミナール大会後にコメント等を踏まえながら、3年次のゼミナール大会へ向けての研究計画書を作成する。</p> |
| 授業時間外の学習 | <p>第11回までは紹介された「経済理論」、「計量経済学」または「データサイエンス」の手法について自ら学習して理解を深めること。第3回以降はゼミナール大会へ向けてグループメンバー間で取り決めた役割分担(資料収集、データ収集、データ入力、データ分析、論文およびパワーポイント作成等)の担当部分について責任を持ち、期限を守って作業を進めること。また、ゼミナール大会以降は研究計画書作成に当たっての担当部分について同様に進めること。</p> |
| 履修条件 | <p>1. 計量経済学(経済データ解析論)を履修済もしくは履修予定であること。また、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、ゲーム理論を履修済、履修中もしくは履修予定であるのが望ましい。</p> <p>2. 履修登録に先立ち教員と面談し、履修の許可を得ること。</p> <p>3. ゼミナールメンバー間の意見交換、研究グループの役割分担等に積極的に参加すること。</p> |
| テキスト | 各グループの研究テーマに応じて適宜指示する。 |
| 参考文献・資料 | <p>1. 田村英朗(2022)「コロナ感染率制御のミクロ経済学的分析ー飲食業を中心としてー」『経済論集』第20号 ノースアジア大学</p> <p>2. 各グループが主体的に収集した研究テーマに関する参考文献・資料</p> |
| 成績評価の方法 | <p>ゼミおよび関連行事への参加と取り組み姿勢 40%、研究成果の発表と貢献度 30%、定期試験 30%の割合で評価する。</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができない。</p> |
| オフィスアワー | <p>火曜日～木曜日の第4時限の時間帯</p> <p>※これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。</p> |
| 成績評価基準 | 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) |
| 学生へのメッセージ | <p>ゼミ研究報告の基本となる重回帰分析の基礎を学び、エクセルを用いて独自の分析ができるようになります。また、分散分析、多変量解析、ゲーム理論など分析目的に合わせた手法も学びます。これらのスキルは企業・官公庁でも役に立ち、将来の労働環境の改善につながることができます。興味を持つ研究テーマを定め、社会の問題解決に繋がる研究活動を目指して頑張りましょう。</p> |

| 授業計画 | | | |
|------|--|------|--------------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス① 研究倫理教育 | 第17回 | 研究③ データ収集状況、分析手法、分析結果の中間報告(グループ A) |
| 第2回 | ガイダンス② ゼミナール活動方針の説明と話し合い | 第18回 | 研究④ データ収集状況、分析手法、分析結果の中間報告(グループ B) |
| 第3回 | 研究① 関心のある研究テーマの発表、仮グループ編成 | 第19回 | 研究⑤ データ収集状況、分析手法、分析結果の中間報告(予備日) |
| 第4回 | 輪読① 経済分析事例研究 (田村(2022)) | 第20回 | 研究⑥ パワーポイント作成状況報告(1) |
| 第5回 | 輪読② 重回帰分析の基礎 | 第21回 | 研究⑦ パワーポイント作成状況報告(2) |
| 第6回 | 輪読③ 重回帰分析の応用 (PC 持参、エクセル操作) | 第22回 | ゼミナール大会予行練習、想定問答 |
| 第7回 | 輪読④ 分散分析の基礎 | 第23回 | ゼミナール大会 (予選) |
| 第8回 | 輪読⑤ 分散分析の応用 (PC 持参、エクセル操作) | 第24回 | ゼミナール大会 (決勝) |
| 第9回 | 輪読⑥ 多変量解析の基礎 | 第25回 | 研究⑧ ゼミナール大会コメント対応方針 (課題抽出)、追加参考文献の発表 |
| 第10回 | 輪読⑦ 多変量解析の応用 (PC 持参、エクセル操作) | 第26回 | 輪読⑫ 追加参考文献(グループ A) |
| 第11回 | 輪読⑧ ゲーム理論のスポーツへの応用 (PC 持参、エクセル操作) | 第27回 | 輪読⑬ 追加参考文献(グループ B) |
| 第12回 | 研究② 研究テーマおよびグループ確定、先行研究確認、参考文献・データ収集など役割分担等の話し合い | 第28回 | 輪読⑭ 追加参考文献(予備日) |
| 第13回 | 輪読⑨ 参考文献(グループ A) | 第29回 | 研究⑨ 研究計画書発表、質疑応答(グループ A) |
| 第14回 | 輪読⑩ 参考文献(グループ B) | 第30回 | 研究⑩ 研究計画書発表、質疑応答(グループ B) |
| 第15回 | 輪読⑪ 参考文献(予備日) | 第31回 | 研究⑪ 研究計画書発表、質疑応答(予備日) |
| 第16回 | 定期試験 | 第32回 | 定期試験 |

| | | | | |
|--|--------|---|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナールI【行政学・政治学（地方自治含む）】 | | |
| | ゼミ担当者名 | 寺迫 剛 | | |
| | 科目分類 | 専門科目群 | | |
| | 開講年次 | 2年次 | 開講期間 | 通年 |
| | 開講時限 | 水曜日1限 | 単位数 | 2単位 |
| | 実施方法 | <input type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input checked="" type="checkbox"/> 対面・遠隔併用 | | |

| | |
|----------|--|
| ゼミのテーマ | <p>そもそも行政や政治とは「社会を共にし、運命を分かち合っている人々が互いに力を合わせて共通のニーズを充足し、人間としてのよりよき存在のために必要な諸条件を整えていくことを目指す集合的な営為」（片岡寛光(1990)『国民と行政』早稲田大学出版部)であることを、本ゼミナールを通じて認識し、行政(学)・政治(学)についての理解を深めること。</p> <p>ゼミナールI, II, IIIを通じて、段階的にゼミ論文を執筆、完成させましょう。</p> |
| ゼミの到達目標 | <p>①行政(学)・政治(学)についての一般的知識を習得し、</p> <p>②ゼミ参加者各自が、各々のテーマを探求し、</p> <p>③他国の事例あるいは同国の他のテーマとの比較の視点を獲得することにより、各自がゼミ論文のテーマを見つけること。</p> |
| ゼミの概要 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ テキスト・レジュメを輪読する形式とします。始めのうちは説明の比重が多いと思いますが、段階的にゼミ参加者との討議の割合を増やしていき、討議メインのゼミにしていきましょう。 ▶ 行政学および政治学の基礎知識を効率よく習得するため、いわゆる公務員試験対策教材を活用する場合があります。 |
| 授業時間外の学習 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 文部科学省の大学設置基準第21条に基づき事前学習(1.5時間)および事後学習(1.5時間)。 ▶ 世間、社会、世界に関心をもって過ごすことで、事前・事後学習時間に充当すること。 |
| 履修条件 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 第1回(お試し)ゼミに、1年次の成績表を把握して出席すること。出席できない場合には、必ず、履修前に国家試験等センターへ個人面談に来てください。上限を超えれば選抜します。 ▶ 「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「比較政治学」、「公共政策論」、「地方創生論」、「都市政策論」「国際研究入門」のシラバスを読んで、興味関心が沸くこと。 |
| テキスト | <ul style="list-style-type: none"> ▶ ゼミ参加メンバーと調整して決定 |
| 参考文献・資料 | <p>『行政学』西岡晋・廣川嘉裕編(文眞堂、2021)</p> <p>『テキストブック地方自治の論点』宇野二郎・長野基・山崎幹根(ミネルヴァ書房、2022)</p> <p>『ダイバーシティ時代の行政学』縣公一郎・藤井浩司編(成文堂、2016)</p> <p>『(国際シンポジウム)住民参加とローカル・ガバナンスを考える』(宮森征司・金晃徳、信山社、2023)</p> <p>『行政学[新版]』(曾我謙悟、有斐閣アルマ、2022)</p> <p>『はじめての行政学[新版]』(伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔、有斐閣スタジオ、2022)</p> <p>『政府間関係の多国間比較』秋月謙吾・城戸英樹編(慈学社、2021)</p> <p>『比較行政学入門』ザビーネ・クールマン、ヘルムート・ヴォルマン(成文堂、2021)</p> <p>『議会制民主主義の揺らぎ』岩崎正洋編(勁草書房、2021)</p> <p>『住民投票の全て』今井一編(『国民投票/住民投票』情報室、2021)</p> <p>『日本型福祉国家再編の言説政治と官僚制』西岡晋(ナカニシヤ出版、2021)</p> <p>『Verwaltung und Verwaltungswissenschaft in Deutschland』Jörg Bogumil und Werner Jann(Springer VS, 2020)</p> <p>『Politics in Time- History, Institutions, and Social Analysis,』Paul Pierson(Princeton University Press, 2004)</p> <p>『行政学[新版]』真淵勝(有斐閣、2020)</p> <p>『行政学の基礎』風間規男編著、岡本三彦、中沼丈晃、上崎哉(一藝社、2019)</p> <p>『日本の地方政府』曾我謙悟(中公新書、2019)</p> <p>『行政学講義』金井利之(ちくま新書、2018)</p> <p>『行政学』原田久(法律文化社、2016)</p> <p>『行政学[第2版]』外山公美編(弘文堂、2016)</p> |

| | |
|-----------|---|
| | 『比較政治学入門』岩崎正洋（勁草書房、2015） 『雇用連帯社会』井手英策編（岩波書店、2011） 『コレク行政学』縣公一郎・藤井浩司編（成文堂、2007） 『都市の再生を考える〈第1巻〉都市とは何か』植田和弘・西村幸夫など編（岩波書店、2005） 『Politics in Time- History, Institutions, and Social Analysis』Paul Pierson, (Princeton University Press, 2004) 『新制度論』B・ガイ・ピーターズ著（土屋光芳訳）（芦書房、2007） 『行政学〔新版〕』西尾勝（有斐閣、2001） 『国民と行政』片岡寛光（早稲田大学出版部、1990） |
| 成績評価の方法 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ ゼミでの積極的参加・貢献の度合い（65%） ➤ レポートあるいは試験（35%） ※ノースアジア大学の規定により、出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。 |
| オフィスアワー | 水曜日 4限および木曜日 4限 |
| 成績評価基準 | 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下） |
| 学生へのメッセージ | 公務員を目指す人も、迷っている人も、むしろイヤな人も、誰もが楽しいゼミにしましょう、なぜなら、行政（学）や政治（学）が対象とするのは、私達みんなであり、一人一人がかけがえなく結びついていること、だからこそ共に暮らす社会もかけがえのないことを学び、ゼミ参加者から、このような社会を支える心意気のある若者が現れることを望みます。 |

| 授業計画 | | | |
|------|---------------------------------|------|--|
| 第1回 | オリエンテーション： 研究倫理教育（全学共通テーマ） | 第17回 | インターミッション：研究活動における不正行為・不適切行為の防止について（全学共通テーマ） |
| 第2回 | 行政学・政治学の基礎知識① 秋田市「まちづくり」の岐路① | 第18回 | テーマ候補のプレゼンテーション① |
| 第3回 | 行政学・政治学の基礎知識② 秋田市「まちづくり」の岐路② | 第19回 | テーマ候補のプレゼンテーション② |
| 第4回 | 行政学・政治学の基礎知識③ 秋田市「まちづくり」の岐路③ | 第20回 | テーマ候補のプレゼンテーション③ |
| 第5回 | 行政学・政治学の基礎知識④ 政党・議会政治① | 第21回 | テーマ候補のプレゼンテーション④ |
| 第6回 | 行政学・政治学の基礎知識⑤ 政党・議会政治② | 第22回 | プレゼンテーションを経たテーマの再検討① |
| 第7回 | 行政学・政治学の基礎知識⑥ 政党・議会政治③ | 第23回 | プレゼンテーションを経たテーマの再検討② |
| 第8回 | 行政学・政治学の基礎知識⑦ 官僚制論・公務員制度論① | 第24回 | プレゼンテーションを経たテーマの再検討③ |
| 第9回 | 行政学・政治学の基礎知識⑧ 官僚制論・公務員制度論② | 第25回 | プレゼンテーションを経たテーマの再検討④ |
| 第10回 | 行政学・政治学の基礎知識⑨ 官僚制論・公務員制度論③ | 第26回 | ゼミ論テーマ・進路選択等プレゼンテーション① |
| 第11回 | ゼミ参加者が取り組むテーマの検討① | 第27回 | ゼミ論テーマ・進路選択等プレゼンテーション② |
| 第12回 | ゼミ参加者が取り組むテーマの検討② | 第28回 | ゼミ論テーマ・進路選択等プレゼンテーション③ |
| 第13回 | ゼミ参加者が取り組むテーマの検討③ | 第29回 | ゼミ論テーマ・進路選択等プレゼンテーション④ |
| 第14回 | ゼミ参加者が取り組むテーマの検討④ | 第30回 | ゼミナールⅠのまとめとゼミナールⅡへの展望① |
| 第15回 | ゼミ参加者が取り組むテーマの検討⑤ | 第31回 | ゼミナールⅠのまとめとゼミナールⅡへの展望② |
| 第16回 | 定期試験あるいはゼミ論等テーマ報告の講評 | 第32回 | 定期試験あるいはゼミ論等テーマ報告の講評 |



| | | | |
|--------|---|------|-----|
| ゼミナール名 | ゼミナール I (人間科学) | | |
| ゼミ担当者名 | 西巻 丈児 (にしまき じょうじ) | | |
| 科目分類 | 専門科目群 | | |
| 開講年次 | 2年次 | 開講期間 | 通年 |
| 開講時限 | 水曜日 1限 | 単位数 | 2単位 |
| 実施方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用 | | |

| | |
|----------|---|
| ゼミのテーマ | 「人間」って何? -経済活動をする人間の「知」とは- |
| ゼミの到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会生活の中で、何をどのように考えればよいのかという思考の諸問題を、自分自身の身近な問題として考える習慣を身につけることができる。 ・ 人間のあり方をみずから考えるという、思考法を身につけることができる。 |
| ゼミの概要 | <p>「自分ってなんだろう?」、「よく生きるためにはどうすればよいのだろうか?」…、結局のところ「人間とはなんだろう?」。あなたもこれに類する事柄を、少なからず考えたことがあるのではないだろうか。実は、このような問いは古代から考えられており、現在までさまざまな答えが提示されてきた。人間の本質を労働と捉え、経済の仕組みが人間のものの見方や考え方を決めていとみなした例もあった。人間には、「真・善・美」という3つのキーワードを用いて、「何を知ることができるのか」、「何をなすべきなのか」、そして「どう感ずるのか」を問うてきた歴史がある。</p> <p>このゼミナール I では、その中でも、「知ること」を中心にして、古代から考えられてきた「人間のあり方」についての思索の道をたどり、「人間の存在」の諸問題を一緒に考えていく。</p> |
| 授業時間外の学習 | <p>予習：(1.5時間程度) 授業の内容は連関しているので、毎回、配布する資料を復習しておき、前の回までの内容を自分なりに考えて授業に臨むようにすること。講読の授業の際には、該当の頁をあらかじめ読んでくること。また、研究発表に向けては、かなりの準備時間が必要となる。</p> <p>復習：(1.5時間程度) 毎回配布する資料に参考文献を記載するので、復習する際にはそれも参考にすること。</p> |
| 履修条件 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回目か第2回目のゼミナールに必ず出席して、「人間についての観方」に関する自身の問題意識を書くことが第一条件である。そして、履修登録に先立ち、本ゼミナールに参加希望する旨を本教員に直接表明し、面談を受けることが、第二条件である。 ・ 講読の授業の際には、該当の頁をあらかじめ読んでくること全員に義務づけられる。 ・ 本ゼミナールに属する学生は全員、研究発表大会などに出場しなければならない。 |
| テキスト | 特に指定はしない。ポータルサイトにて、毎回事前に配布するプリントが教科書の代わりとなる。また、パワーポイント、映像資料や文字資料も適宜使用する。 |
| 参考文献・資料 | <p>プラトン『ソクラテスの弁明』岩波文庫 デカルト『方法序説』岩波文庫</p> |
| 成績評価の方法 | <p>3分の2以上の出席を前提に、授業時に毎回提出してもらったリアクションペーパーによる理解度(20%)、発表時の内容(30%)と、定期試験(50%)を総合して、最終的な評価を下す。また、欠席、遅刻、私語、居眠り、無断退出等については減点の対象とする。</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。</p> |
| オフィスアワー | <p>火曜日 10:40~12:10 木曜日 10:40~12:10 事前連絡があれば、上記時間の他にも可能性あり。</p> |
| 成績評価基準 | 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) |

| | |
|----------------------|--|
| 学 生 へ の メ ッ セ ー ジ | 日々の暮らしの中に、自分自身の生き方を考えるさまざまなヒントが隠れている。解決することはできないかもしれないが、考え続けるということはとても大切なことである。一緒に人間の問題について考えていこう。 |
|----------------------|--|

| 授業計画 | | | |
|------|--|------|--|
| 第1回 | ガイダンスα： ・ゼミ参加者の自己紹介とゼミの進め方 ・研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について | 第17回 | ガイダンス：前期の復習と後期の授業展開 |
| 第2回 | ガイダンスβ： ゼミ参加者の自己紹介とゼミの進め方 | 第18回 | キリスト教の誕生と展開：信仰と知の分離 |
| 第3回 | 人間とは？：〈私〉は何を知ることができるのか | 第19回 | 近世の自然観：科学革命の誕生 |
| 第4回 | 客観とは？：ありのままの姿を考える | 第20回 | 近世の合理的精神：デカルトのコギト |
| 第5回 | 無知の知とは？：ソクラテスのフィロソフィア | 第21回 | レポート完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会① |
| 第6回 | 存在の探求とは？(1)：プラトンのイデア論 | 第22回 | レポート完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会② |
| 第7回 | 存在の探求とは？(2)：アリストテレスの世界観 | 第23回 | 人間のあり方について考える：近世編 デカルトの著作にみる「私」の発見(1) |
| 第8回 | 人間のあり方について考える：古代編 プラトンの著作にみる人間と知(1) | 第24回 | 人間のあり方について考える：近世編 デカルトの著作にみる「私」の発見(2) |
| 第9回 | 人間のあり方について考える：古代編 プラトンの著作にみる人間と知(2) | 第25回 | 人間のあり方について考える：近世編 デカルトの著作にみる「私」の発見(3) |
| 第10回 | 人間のあり方について考える：古代編 プラトンの著作にみる人間と知(3) | 第26回 | 人間のあり方について考える：近世編 デカルトの著作にみる「私」の発見(4) |
| 第11回 | 人間のあり方について考える：古代編 プラトンの著作にみる人間と知(4) | 第27回 | 理性への反省(1)：カントの人間観 |
| 第12回 | 人間のあり方について考える：古代編 プラトンの著作にみる人間と知(5) | 第28回 | 理性への反省(2)：カントの世界観 |
| 第13回 | 人間のあり方と知に関するディスカッション | 第29回 | レポート完成計画Ⅲ 研究発表会① |
| 第14回 | レポート完成計画Ⅰ：(レポート執筆の準備) 文献の探し方、文献注記の書き方など | 第30回 | レポート完成計画Ⅲ 研究発表会② |
| 第15回 | 前期のゼミのまとめと夏季休暇中の課題について | 第31回 | 本ゼミナールの総括 |
| 第16回 | 定期試験 | 第32回 | 定期試験 |

| | | | | |
|--|--------|---|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (表現文化) | | |
| | ゼミ担当者名 | 橋元 志保 | | |
| | 科目分類 | 専門科目群 | | |
| | 開講年次 | 2年次 | 開講期間 | 通年 |
| | 開講時限 | 水曜日1限 | 単位数 | 2単位 |
| | 実施方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用 | | |

| | |
|----------|--|
| ゼミのテーマ | 日本やイギリスの文化・文学を学び、大学生にふさわしい教養を身につける。 |
| ゼミの到達目標 | このゼミナールの単位を良好な成績で修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 世界遺産を中心に日本や海外の文化に触れ、その歴史や特色を説明することができる。 2. 国内外の優れた文学に触れ、その主題や特色を文化的背景も含めて理解することができる。 3. 文化や文学をテーマにした研究を行い、論述や口頭で発表することができる。 |
| ゼミの概要 | 表現文化ゼミナールでは、文学や芸術、世界遺産等を中心に国内外の文化に触れ、大学生にふさわしい教養を深めることを目的とします。また、日本やイギリスの文学作品を中心に講読を行い、評論や論文を理解できるような読解力・思考力を涵養します。そして、文化や文学をテーマに論述・プレゼンテーションが行えるような表現力も身につけていきます。なお、将来の進路や採用試験・公務員試験に関するサポートも行っています。 |
| 授業時間外の学習 | 1. ゼミで取り上げる評論や小説を、指定された頁まで必ず読んできてください。また、難解な漢字や語句の意味は必ず調べておきましょう（1時間程度）。 2. プレゼンテーションの練習を行いますので、発表日までに、指定されたテーマによるパワーポイントの作成、及び発表準備を行うこと（3時間以上・発表前のみ）。 3. ゼミで紹介した文学作品やエッセイ、評論等を読むことを推奨します（1～2時間程度）。 |
| 履修条件 | ① 「文章の読み方」「小論文の書き方」「日本の文学」「福祉と文学」「旅と文学」のいずれかの科目を履修して単位を修得しているか、今年度、上記科目及び「世界文学としての日本文学」のうち、1科目以上を履修する意欲があること。 ② 前期の履修登録期間中（体験ゼミナール1回目・2回目、もしくは指定された時間）に担当教員と面談し、登録の許可を得ること（事前に面談せず、履修登録だけを行った場合は単位を認定できません）。 ③ 担当教員から連絡があった場合は必ず応答し、ゼミの課題には積極的に取り組み、学則は遵守すること。 |
| テキスト | ポータルサイトに掲載するか、授業時に資料を配布します。また、特に後期はゼミの皆の意見を聞きながら、テキストを選んでいきます。 |
| 参考文献・資料 | 授業の中で随時、紹介していきます。君塚直隆『イギリスの歴史』（河出書房新社 2022年）他 |
| 成績評価の方法 | 【主体的な学びの姿勢（25%）、課題の提出（25%）、定期試験（50%）】の総合評価とします。 1. 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることが出来ません。 2. 授業中の迷惑行為は厳禁です。そのような行為を繰り返し、注意しても改めない場合は、単位を認定できない場合があります。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。 |
| オフィスアワー | 火曜日 13時00分～14時30分 / 木曜日 13時00分～14時30分 ※これ以外の時間は事前に予約してください。 |


| | |
|-----------|--|
| 成績評価基準 | 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) |
| 学生へのメッセージ | 皆さんには夢がありますか？将来の進路をどのように考えていますか？実は、そのような質問をしたり、考えたりできることは、とても幸せなことなのです。この地球上には、そんなことを考える余裕もない、ただ生きていくだけで精一杯の子どもや若者たちが数多く存在しています。視野を広く、そして心を豊かにするために、皆で国内外の文化・文学を学んでいきましょう。 |

| 授業計画 | | | |
|------|---------------------|------|-----------------|
| 第1回 | 表現文化と研究倫理 | 第17回 | ギリシア・ローマ文化と世界遺産 |
| 第2回 | 世界遺産とは何か | 第18回 | キリスト教と世界遺産 |
| 第3回 | 美しい日本の自然と文化 | 第19回 | ルネッサンスと世界遺産 |
| 第4回 | 世界遺産と日本の神話 | 第20回 | イギリスの歴史と文化 |
| 第5回 | 世界遺産と仏教文化 | 第21回 | イギリスの世界遺産 |
| 第6回 | 世界遺産と日本の古典 | 第22回 | イギリスはおいしい |
| 第7回 | 世界遺産と日本の近代文学 | 第23回 | イギリスの小説を読む |
| 第8回 | テーマ学修を始めよう | 第24回 | イギリスの詩を読む |
| 第9回 | 文献調査の仕方 | 第25回 | イギリスの戯曲を読む |
| 第10回 | グループディスカッションの練習 | 第26回 | 論文を読んでみよう |
| 第11回 | パワーポイント作成の技術 | 第27回 | レポート・論文の書き方 |
| 第12回 | プレゼンテーションの基礎 | 第28回 | 話す技術・敬語・マナーを磨こう |
| 第13回 | プレゼンテーションの実践Ⅰ | 第29回 | プレゼンテーションの技術 |
| 第14回 | アカデミック・ライティングの基本スキル | 第30回 | プレゼンテーションの実践Ⅱ |
| 第15回 | キャリア・プランニングⅠ | 第31回 | キャリア・プランニングⅡ |
| 第16回 | 定期試験 | 第32回 | 定期試験 |

| | | | | |
|---|--------|----------------------------|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I | | |
| | ゼミ担当者名 | 花田富二夫 | | |
| | 科目分類 | 専門科目群 | | |
| | 開講年次 | 2年次 | 開講期間 | 通年 |
| | 開講時限 | 水曜日 1限 | 単位数 | 2単位 |
| | 実施方法 | ◆対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用 | | |


| | |
|-----------|---|
| ゼミのテーマ | 文章作成の基礎を学び、社会・文化に関するさまざまな文章を読解し、それらに対する自分の意見を述べて文章化する。後期は自由課題を設定し、各自、あるいは班別による自由論文の作成を目指し、パワーポイントなどによる発表会を実施する。年度末にはこれらの論述文を提出する。 |
| ゼミの到達目標 | 文章作成方法の基礎の修得のもと、社会文化に関する文章、または優れたエッセイを読みながら、自分の考えを述べることができ、それらを文章化できるようにする。そして、最終的には、自由課題に関する本格的レポートの作成を目指す。 |
| ゼミの概要 | 前期では、文章表現の基礎としての表記の問題や、論述上の文章構成の問題などを基礎的分野から学ぶ。後期には、自分の課題を設定し、レポートを作成してパワーポイントの発表を行う。 |
| 授業時間外の学習 | 新聞記事やさまざまな評論文を読み、文章の要点をまとめたり、文章の構成について分析的に考えたりする習慣を、常ひごろから身につけておくことが望ましい。 |
| 履修条件 | 特になし。 |
| テキスト | すべて講義中に指示する。 |
| 参考文献・資料 | 授業時に指示する。 |
| 成績評価の方法 | 毎回の出席を重視する。授業時の提出課題を重視する。これらを総合評価して換算する。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。 |
| オフィスアワー | 水曜日 4限目 |
| 成績評価基準 | 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) |
| 学生へのメッセージ | 遅刻・欠課は必ず連絡できる責任感と積極的に授業に取り組む真摯な態度を持ってもらいたい。文章表現・文章作成に自信のない人を歓迎する。 |

| 授業計画 | | | |
|------|--------------------------|------|----------------------------|
| 第1回 | 研究倫理教育 | 第17回 | 研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について |
| 第2回 | ガイダンス 表記の基礎 句読点・表記符号の使い方 | 第18回 | 各種の文章を読解し、意見を述べ文章化する。 |
| 第3回 | 表記の基礎 仮名づかいを正しく | 第19回 | 各種の文章を読解し、意見を述べ文章化する。 |
| 第4回 | 表記の基礎 送り仮名の送り方 | 第20回 | 各種の文章を読解し、意見を述べ文章化する。 |
| 第5回 | 表記の基礎 同音異義語・類義語の注意 | 第21回 | 各種の文章を読解し、意見を述べ文章化する。 |
| 第6回 | 表記の基礎 慣用的な表現 | 第22回 | 自由課題の設定に関する面談 |
| 第7回 | 表記の基礎 文の乱れに注意 | 第23回 | 自由課題に関する調査・資料収集 |
| 第8回 | 表記の基礎 文を短く・文体の統一 | 第24回 | 自由課題に関する調査・資料収集 |
| 第9回 | 文章作成の基礎 文は人なり | 第25回 | 自由課題に関するレポート作成 |
| 第10回 | 文章作成の基礎 小論文とレポート、作文 | 第26回 | 自由課題に関するレポート作成 |
| 第11回 | 文章作成の基礎 小論文の型と実践（1） | 第27回 | 自由課題の中間発表 |
| 第12回 | 文章作成の基礎 小論文の型と実践（2） | 第28回 | 自由課題に関する修正 |
| 第13回 | 文章作成の基礎 小論文の型と実践（3） | 第29回 | 自由課題に関する修正 |
| 第14回 | 文章作成の基礎 自己推薦書の書き方 | 第30回 | 自由課題発表会（パワーポイント使用） |
| 第15回 | 文章作成の基礎 志望理由書の書き方 | 第31回 | 自由課題発表会（パワーポイント使用） |
| 第16回 | 定期試験 小論文提出 | 第32回 | 定期試験 自由課題レポート提出 |

| | | | | |
|--|--------|----------------------------|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (日本経済のマクロ分析 I) | | |
| | ゼミ担当者名 | 深澤泰郎 | | |
| | 科目分類 | 専門科目群 | | |
| | 開講年次 | 2年次 | 開講期間 | 通年 |
| | 開講時限 | 水曜日 1限 | 単位数 | 2単位 |
| | 実施方法 | ◆対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用 | | |

| | |
|------------|---|
| ゼミのテーマ | マクロ経済学の視点から、まず日本経済の全体像を理解する。その大前提となる日本の人口問題について確認するとともに、日本の製造業の劣化についてもその実態を把握する。 |
| ゼミの到達目標 | 日本経済の問題点を探るために、まずその全体像と実態を把握します。それによって、日本経済の問題点が自分なりに理解できます。また、ビジネスパーソンにとっては必ず必要となる毎日の経済ニュースの理解度が飛躍的に高まります。 |
| ゼミの概要 | 2年次ということで、基礎知識の確認を中心とするため、輪読と意見発表の展開で進めます。基礎知識を習得するとともに、自ら考える姿勢を自分のものとして下さい。この1年で、自分の研究テーマを探して下さい。受講者の理解度、進行状況等を考慮して、シラバスを変更する場合があります。 |
| 授業時間外の学習 | テキストの内容について、最新の経済データを事前に準備すること。 日本経済新聞に目を通すこと。 |
| 履修条件 | マクロ経済学 I、生活経済学の単位を取得済みかまたは同時履修すること。以降に、マクロ経済学 II も履修すること。 |
| パソコン使用について | 受講者はかならずパソコンを持参すること。紙での配布は、原則禁止されましたので、資料はポータルサイトに掲示します。また授業でパソコンを使用して、経済データの分析、グラフ作成を行う場合があります。 |
| テキスト | 予定 「日本経済入門」野口悠紀雄 講談社現代新書、 |
| 参考文献・資料 | 「野口悠紀雄の経済データ分析講座」ダイヤモンド社 日本経済と財政危機の本質シリーズ 3R「日本が抱える大きな重荷！激減する人口と消滅する地方都市」深澤泰郎、 同シリーズ 10「劣化する日本の製造業」深澤泰郎、 その他についてはゼミの中でお話しします。 |
| 成績評価の方法 | 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) |
| オフィスアワー | 火曜日 13:00～14:30 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 14:40～16:10 |
| 成績評価基準 | 輪読と意見発表 (70%)、まとめのレポート (30%) |
| 学生へのメッセージ | 日本の将来については、マクロ経済的には非常に暗い展望しか描けません。その解決策を探るには、まず日本経済の実態を把握して、将来予想を行う必要があります。そのうえで、自分で考える姿勢を習得できれば、就職の際にも、さらに就職後の人生に、「有効なツール」となります。個人として幸福になる道をいっしょに探しましょう。 |

| 授業計画 | | | |
|------|--|------|----------------------------|
| 第1回 | ガイダンス 研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について 教科書紹介 1年間の目標設定 | 第17回 | 研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について |
| 第2回 | 不振が続く国内需要 | 第18回 | 膨張を続ける医療・介護費 |
| 第3回 | 首都圏のジリ貧に気づかない「地域間格差」論の無意味 | 第19回 | 公的年金が人口高齢化で維持不可能になる |
| 第4回 | 「人口の波」が語る日本の過去半世紀、今後半世紀 | 第20回 | 日銀の異次元緩和は事実上の財政ファイナンス |
| 第5回 | 地方も大都市も等しく襲う「現役世代の減少」と「高齢者の激増」 | 第21回 | 第8回～19回までのまとめとレポート作成 |
| 第6回 | 「人口減少は生産性上昇で補える」という誤った思い込み | 第22回 | レポート作成 |
| 第7回 | 第1回から6回までのまとめと各自のレポート作成 | 第23回 | 新しい技術で生産性を高める |
| 第8回 | レポート作成 | 第24回 | 成長するアメリカと停滞する日本 |
| 第9回 | 経済活動をとらえる経済指標 国民経済計算 | 第25回 | 人工知能とビックデータが広げる可能性 |
| 第10回 | 製造業の縮小は不可避 | 第26回 | 新しいITサービスが変える市場経済の姿 |
| 第11回 | 製造業就業者は全体のまで縮小 | 第27回 | 本格的利用が始まったビットコイン技術 |
| 第12回 | ピケティの仮説では日本の格差問題は説明できない | 第28回 | 学校教育の問題 |
| 第13回 | 物価の下落は望ましい | 第29回 | 第22回～26回までのまとめとレポート作成 |
| 第14回 | 異次元緩和政策は失敗に終わった | 第30回 | レポート作成 |
| 第15回 | 深刻な労働力不足が日本経済を直撃する | 第31回 | 年間レポート作成 |
| 第16回 | 定期試験 | 第32回 | 定期試験 |

| | | | | |
|--|--------|---|------|-----|
|  | ゼミナール名 | 三浦ゼミナール (グローバル英語) | | |
| | ゼミ担当者名 | 三浦 薫 | | |
| | 科目分類 | 専門科目群 | | |
| | 開講年次 | 2年次 | 開講期間 | 通年 |
| | 開講時限 | 水曜日1限 | 単位数 | 2単位 |
| | 実施方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用 | | |

| | |
|-----------|---|
| ゼミのテーマ | 真の国際人への第一歩として大切なことは、ただ英語能力を高めることでも、他国の文化を知ることだけでもありません。まずは自国である日本、日本文化をしっかりと理解することから始めましょう。 |
| ゼミの到達目標 | 海外発信の日本文化に関する文献を読むことで、他者の視点による文化理解のあり方を学びながら日本について再発見をします。 |
| ゼミの概要 | 「英語の勉強」はゼミではやりません。毎回のテーマに関して、まずは読む、考える、意見をまとめる、発表し、他の人の意見を聞き、話し合う力を高めあいます。 |
| 授業時間外の学習 | 沢山本読むこと。世界、日本、秋田の情勢を知るために、ニュース、新聞を常にチェックすること |
| 履修条件 | 沢山本を読むこと、プレゼンをすることを積極的に行える人 |
| テキスト | プリントを配布します |
| 参考文献・資料 | ゼミナールで指示します。 |
| 成績評価の方法 | レポート50%、プレゼンテーション40% 試験10% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。 |
| オフィスアワー | 火曜10時40分から12時10分 木曜9時から10時半 |
| 成績評価基準 | 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) |
| 学生へのメッセージ | 英語は英語の講義の時間で学びましょう。ゼミでは、英語を通して日本を学んでもらいたいと思います。新しい気づきのきっかけになれば良いと思います。 |

| 授業計画 | | | |
|------|-------------------------|------|-------------------------|
| 第1回 | 研究倫理教育 | 第17回 | Jポップと歌謡曲の世界 |
| 第2回 | アニメの世界 | 第18回 | 学生によるプレゼンテーション (レポート形式) |
| 第3回 | 学生によるプレゼンテーション (レポート形式) | 第19回 | ボカロの世界 |
| 第4回 | マンガの世界 | 第20回 | 学生によるプレゼンテーション (パワポ) |
| 第5回 | 学生によるプレゼンテーション (パワポ) | 第21回 | ゲームの世界 |
| 第6回 | カワイイ文化①について | 第22回 | 学生によるプレゼンテーション (レポート形式) |
| 第7回 | 学生によるプレゼンテーション (レポート形式) | 第23回 | 日本の食の世界 |
| 第8回 | カワイイ文化②について | 第24回 | 学生によるプレゼンテーション (パワポ) |
| 第9回 | 学生によるプレゼンテーション (パワポ) | 第25回 | 海外における日本のポップカルチャー① |
| 第10回 | お笑いの世界 | 第26回 | 学生によるプレゼンテーション (レポート形式) |
| 第11回 | 学生によるプレゼンテーション (レポート形式) | 第27回 | 海外における日本のポップカルチャー② |
| 第12回 | コスプレについて | 第28回 | 学生によるプレゼンテーション (パワポ) |
| 第13回 | 学生によるプレゼンテーション (パワポ) | 第29回 | 後期まとめのプレゼンテーション |
| 第14回 | 宝塚歌劇と歌舞伎の世界 | 第30回 | 後期のまとめプレゼンテーション |
| 第15回 | 前期まとめのプレゼンテーション | 第31回 | 一年のまとめプレゼンテーション |
| 第16回 | 定期試験 | 第32回 | 定期試験 |



| | | | |
|--------|---|------|-----|
| ゼミナール名 | ゼミナール I (環境学) | | |
| ゼミ担当者名 | 村中 孝司 (むらなか たかし) | | |
| 科目分類 | 専門科目群 | | |
| 開講年次 | 2年次 | 開講期間 | 通年 |
| 開講時限 | 水曜日 1限 | 単位数 | 2単位 |
| 実施方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用 | | |

| | |
|-----------|---|
| ゼミのテーマ | <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境、農業、食、地域振興等に関する探究を通して、環境と経済の関係を読み解く。 2. 自然風景と地域資源の魅力発掘を客観的手法により方法を探究する。 3. 研究の成果を発表し、口頭や文章で表現する方法を学ぶ。 |
| ゼミの到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 食料と農林漁業に関する問題、自然風景の評価手法、生物多様性に関する問題など、多様な視点から地域課題に関するテーマを調査し、環境や地域に対する理解を深めます。 2. メンバーの発表をよく聴き、質問や意見を述べる力を身につけます。 3. 学術書や論文を読み、文章を深く理解し、自分で表現する力を身につけます。 4. 大学生としてどのような学業を修めたか、1つの研究テーマを見つけます。 |
| ゼミの概要 | <p>自然、環境、経済の関係に着眼し、持続可能な社会の構築を考えることを目標にしています。また、自然や社会における問題を発見し、解決に導く勉強を行います。ゼミナールでは、フィールドワークを併せて実施します。座学の勉強だけでは、本質的な問題を発見することは難しいからです。自然や社会に対する皆さんの観察眼が向上し、問題を見つけ出す力を養成します。</p> <p>ゼミの内容は、①輪読、②研究の2つです。</p> <p>① 輪読：自然科学、環境経済、農業、食文化、自然風景などをテーマとした学術書を、年間を通して1冊読み、知識と考え方を身につけます。どの教科書を読むかについては、ゼミが始動してから相談して決定します。</p> <p>② 研究：2～3人程度のチームで1つのテーマを決め、研究を行います。研究のテーマは、自然風景、食文化、食料・農林漁業、生物多様性、環境認識などから、関心のあるテーマを教員と相談しながら見つけることから始まります。これは、4年次に作成する卒業論文のための事前準備です。2年生のゼミは、研究のスタートラインと位置づけますので、1年間かけて研究テーマをじっくりと探してください。</p> |
| 授業時間外の学習 | <p>図書館や自宅では本や論文を読み、知識や文章の書き方、論理的な説明の方法を学んでください。ゼミナール内外の仲間たちとも、よく議論してください。ただ漠然と日常を過ごすのではなく、どこかに興味深い問題が転がっていないか、探索する眼を養ってください。あらゆる場所に、興味深いテーマは落ちています。</p> |
| 履修条件 | <p>次の①～③の条件をすべて満たす者としてします。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 2～3人のチームで協力しながら、研究に熱心に取り組むことができる者。 ② 2回の体験ゼミのうち、少なくとも1回に出席した者。 ③ 経済学部生は「総合科目Ⅰ・Ⅱ」、法学部生は「学生生活入門Ⅰ・Ⅱ」の単位を全て修得済みであること。さらに、自然科学概論Ⅰ・Ⅱ、基礎数学Ⅰ・Ⅱ、統計学、数的推理Ⅰ・Ⅱ、地球環境学、地域フィールドワークから2単位以上を修得していること。 |
| テキスト | ゼミナール中にみなさんと相談して決定します。 |
| 参考文献・資料 | ゼミナール中に紹介します。 |
| 成績評価の方法 | <ol style="list-style-type: none"> ① 輪読 (50%)、自主・グループ研究 (50%) ② ①に対してそれぞれ、発表 (50%)、他者への質問・コメント・意見・議論等 (50%) <p>出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p> |
| オフィスアワー | 火曜日 14:40～16:10、水曜日 14:40～16:10 |
| 成績評価基準 | 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) |
| 学生へのメッセージ | <p>大学は学問に取り組むところです。学問に対して真剣に取り組むのならば、どのようなテーマでもよいと思います。自信を持って他者に自慢できる研究を行ってほしいと願っています。研究</p> |

の成果は、学内の研究発表会などで発表することを推奨しています。また、ゼミナール研修会（夏期）は、リゾートしらかみ号に乗り、白神山地十二湖（青森県深浦町）へ日帰りで遠足に行く予定です。学生相互の親睦は、研究活動によって養われることをモットーとしています。

| 授業計画（環境学ゼミナールⅠ） | | | |
|-----------------|---|------|--|
| 第1回 | 体験入室 研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について | 第17回 | 研究⑬ 食の安全性食品偽装、化学物質汚染 |
| 第2回 | ガイダンス ゼミの目標 | 第18回 | 研究⑭ 事例：自然風景の価値 自然風景をどのような視点で捉えるか 生態系サービス |
| 第3回 | 研究① 大学での学びとゼミナール 学習と研究 コミュニケーションと批判的思考 | 第19回 | 研究⑮ 事例：自然風景の魅力と認識 魅力の定量化 自然、文化遺産の価値評価 |
| 第4回 | 研究② 学術研究とは何か 学術研究のプロセス 輪読① | 第20回 | 研究⑯ フィールドワーク 問題の発見 輪読⑦ |
| 第5回 | 研究③ 文献から学ぶ 学術文献の探し方 輪読② | 第21回 | 研究⑰ フィールドワーク 量的データの収集方法 輪読⑧ |
| 第6回 | 研究④ 文献から学ぶ 学術論文を読む 知識を得る、論文の構造を読み解く | 第22回 | グループ研究① グループの構成と議論 |
| 第7回 | 研究⑤ 文献から学ぶ 読む、批判的読解 輪読③ | 第23回 | グループ研究② 研究テーマの考案 |
| 第8回 | 研究⑥ ワークショップ 討論の方法、アイスブレイク ディベート | 第24回 | グループ研究③ 研究テーマの目的と背景、主張の考案 |
| 第9回 | 研究⑦ 統計データの収集と分析 統計データを活用する 可視化する | 第25回 | グループ研究④ 先行研究の調査と分析 |
| 第10回 | 研究⑧ 情報の収集 情報の鮮度、信頼性 輪読④ | 第26回 | グループ研究⑤ 情報の収集 |
| 第11回 | 研究⑨ 情報の収集 図書情報、インターネット情報 量的データと質的データ | 第27回 | グループ研究⑥ 情報の分析とデータの可視化 |
| 第12回 | 研究⑩ 事例：地球環境問題 地球規模の環境問題 地域の公害問題 | 第28回 | グループ研究⑦ 論理構成 |
| 第13回 | 研究⑪ フィールドワーク 観察の記録（予備調査） 輪読⑤ | 第29回 | グループ研究⑧ 研究目標の作成と確認 |
| 第14回 | 研究⑫ フィールドワーク 観察の記録（本調査） | 第30回 | グループ研究⑧ 仮説の設定 |
| 第15回 | 研究⑬ 探究の事例：食料問題 食料需給、食料自給率 フードマイレージ、環境負荷 | 第31回 | グループ研究⑨ 中間報告 |
| 第16回 | 研究⑭ 事例：農業問題 耕作放棄地問題 輪読⑥ | 第32回 | 定期試験 |

| | | | | |
|---|--------|---|------|-----|
|  | ゼミナール名 | ゼミナール I (憲法) | | |
| | ゼミ担当者名 | 渡部 毅 | | |
| | 科目分類 | 専門科目群 | | |
| | 開講年次 | 2年次 | 開講期間 | 通年 |
| | 開講時限 | 水曜日 1限 | 単位数 | 2単位 |
| | 実施方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用 | | |

| | |
|-----------|---|
| ゼミのテーマ | 憲法問題について関心を持ち、自ら調べ、考える力を身につける。 |
| ゼミの到達目標 | 日本国憲法の定める統治機構や基本的人権について、その意義・内容を深く理解し、憲法解釈ができるようになる。 |
| ゼミの概要 | このゼミでは、「統治機構」や「人権」で学修した内容を復習しつつ、発展的な研究を行っていきます。前期の後半から後期にかけては、主として、判例研究を通じて、多様な角度から憲法を勉強します。また補充的に、問題演習を行います。問題演習では、典型的な事例問題、判例をベースにした問題から、理論的な問題や時事的な問題に至るまで、種々の問題を通して憲法を学んでいきます。受講生には、まず憲法の基礎を再確認してもらい、その上で、具体的な問題において、憲法がどのような役割を果たしているか、また教科書に登場する諸理論が具体的な事件の中でどのように使われているか（使われるべきか）の理解を深めてもらいたいと考えています。ゼミでは、各自が担当する判例を割り当てます。担当者は、自分の担当判例について、事実の概要、判決内容、判決の検討を記したレジュメを予め作成し、授業では、それに基づいて報告し、質疑応答するという形式で討論を行っていきます。なお、受講者の人数等により、進め方を変更することもあります。 |
| 授業時間外の学習 | 他の報告者が担当する判例についても、あらかじめ、事実の概要、判旨等を予習する（2時間）。報告後に、ゼミの議論を踏まえて、内容の確認を行う（2時間）などの学習が必要です。 |
| 履修条件 | このゼミナールの履修者は、「統治機構」「人権」を履修していることが望ましい。未履修の場合には、ゼミナールと並行してこれらの講義科目を履修するなり自学するなりしてください。 |
| テキスト | 各自が使用している憲法の教科書・判例集 |
| 参考文献・資料 | 定評のある基本書を、適宜、参考にしてしてください。ゼミにおいても随時、紹介します。 |
| 成績評価の方法 | レポーターとしての報告内容(40%)、参加態度(40%)、定期試験 20% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。 |
| オフィスアワー | 水曜日 15:00~16:00 木曜日 15:00~16:00 |
| 成績評価基準 | 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) |
| 学生へのメッセージ | 憲法の基礎知識を確認・修得し、判例学習をすることで、憲法的思考を伸ばしていきましょう。なお、履修する者は毎回の出席が義務付けられます。また、履修には、毎回合計4時間の学修時間を要します。 |

| 授業計画 | | | |
|------|--|------|---|
| 第1回 | ガイダンス 研究倫理教育 | 第17回 | 後期のガイダンス |
| 第2回 | 報告の仕方・文献の調べ方について | 第18回 | 判例研究報告(4) 法の下の平等 嫡出の有無による法定相続分差別事件の下級審判決・最高裁判決の分析 |
| 第3回 | 「人権」「統治機構」の復習(1) | 第19回 | 判例研究報告(5) 法の下の平等 国籍法非嫡出子差別規定違憲訴訟の下級審判決・最高裁判決の分析 |
| 第4回 | 「人権」「統治機構」の復習(2) | 第20回 | 判例研究報告(6) 信教の自由と政教分離 剣道拒否事件の下級審判決・最高裁判決の分析 |
| 第5回 | 「人権」「統治機構」の復習(3) | 第21回 | 判例研究報告(7) 信教の自由と政教分離 津地鎮祭事件の下級審判決・最高裁判決の分析 |
| 第6回 | 「人権」「統治機構」の復習(4) | 第22回 | 問題演習(3) |
| 第7回 | 「人権」「統治機構」の復習(5) | 第23回 | 問題演習(4) |
| 第8回 | 「人権」「統治機構」の復習(6) | 第24回 | 問題演習(5) |
| 第9回 | 「人権」「統治機構」の復習(7) | 第25回 | 判例研究報告(8) 表現の自由 税関検査事件の下級審判決・最高裁判決の分析 |
| 第10回 | 判例研究報告(1) 外国人の人権 外国人地方参政権訴訟の下級審判決・最高裁判決の分析 | 第26回 | 判例研究報告(9) 営業の自由 薬局距離制限事件の下級審判決・最高裁判決の分析 |
| 第11回 | 判例研究報告(2) 人権の私人間効力 三菱樹脂事件の下級審判決・最高裁判決の分析 | 第27回 | 判例研究報告(10) 法定手続の保障 成田新法事件の下級審判決・最高裁判決の分析 |
| 第12回 | 判例研究報告(3) プライバシーの権利 早大講演会名簿提出事件の下級審判決・最高裁判決の分析 | 第28回 | 問題演習(6) |
| 第13回 | 問題演習(1) | 第29回 | 問題演習(7) |
| 第14回 | 問題演習(2) | 第30回 | 問題演習(8) |
| 第15回 | 前期のまとめ | 第31回 | まとめ |
| 第16回 | 定期試験 | 第32回 | 定期試験 |